



横浜市新市庁舎
完成記念
3館連携展示

横浜都市発展記念館

企画展

近現代 横浜を 掘る

洲千島から
ひろがる
都市の
すがた

再開催

2020年

7月23日(木・祝)～

9月22日(火・祝)

横浜都市発展記念館

Museum of Yokohama Urban History

開館時間 / 9:30～17:00(券売は閉館30分前まで)

休館日 / 月曜日(8月10日、9月21日は開館)および8月11日(火)

入館料 / 一般300円、小・中学生150円、横浜市内在住65歳以上150円

「3館連携共通券」、当初会期の「招待券」をお持ちの方はご使用頂けます。

・この料金を当館常設展および横浜ユーラシア文化館もご覧いただけます。

・毎週土曜日、小・中学生と高校生は無料です。

主催：(公財) 横浜市ふるさと歴史財団 共催：横浜市教育委員会 協賛：横浜市総務局

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示期間・開館日・開館時間、イベント等については変更する場合がありますので、最新の情報はお出かけ前に、当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

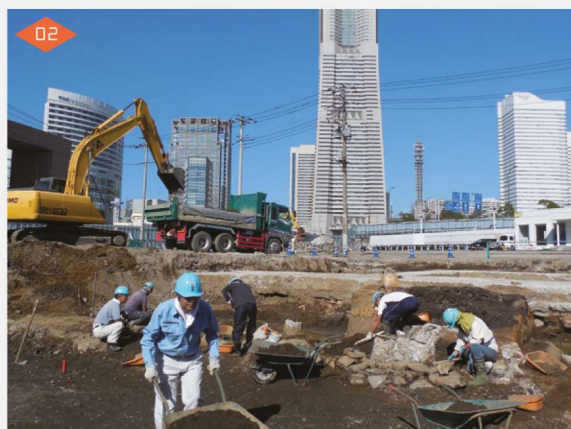


近代横浜を 掘る

洲干島からひろがる
都市のすがた

2020(令和2)年春、中区本町6丁目に横浜市の新しい市庁舎が完成しました。大岡川沿いに位置する新市庁舎の建設地は、江戸時代から続く洲干弁天社の社地にあたり、建設に先立っておこなわれた埋蔵文化財(洲干島遺跡)の発掘調査では、開港期の石積み護岸や関東大震災で倒壊した建物基礎などの遺構が発見されました。これらの発見は、開港以降積み重ねられた歴史の上に現在の横浜があることを私たちに教えてくれます。

本展示では、新市庁舎が建った北仲通南地区を中心に、開港から震災復興までの都市横浜のすがたを、洲干島遺跡の発掘調査から得られた成果をもとに紹介します。



- 01 上空から見た洲干島遺跡 平成27(2015)年
(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター提供
- 02 発掘調査の様子 平成27(2015)年
(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター提供
- 03 航路標識管理所 明治後期 横浜開港資料館所蔵
- 04 関東大震災直後の本町6丁目 大正12(1923)年
横浜開港資料館所蔵
- 05 大岡川の石積み護岸 平成28(2016)年
(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター提供

展示構成

- I 洲干島遺跡を掘る
- 横浜市庁舎の足元にねむる遺跡 -
- II 洲干島遺跡の変遷をたどる
開港場の整備／灯台事業の拠点へ／
学びの施設／本町通りの繁栄／
関東大震災と復興
- III 都市横浜の近代を掘る
- 近代遺跡の発掘調査 -
山下居留地遺跡／山手120番館遺跡／
北仲通一丁目遺跡
- IV 洲干島遺跡の現在

関連企画

企画展示開催期間中、3館連携展示
ウェブサイト上にて本展、連携展示
の見どころを紹介する動画を順次
配信予定です。ご期待ください。



アクセス

- 東急東横線・みなとみらい線「日本大通り」駅
(3番出口)より徒歩0分
- JR「関内」駅南口・市営地下鉄「関内」駅下車
徒歩10分
- 横浜市営・神奈中バス「日本大通り駅南口前」
下車徒歩1分

横浜都市発展記念館

Museum of Yokohama Urban History

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel.045-663-2424

連携展示情報

- ◆ 横浜市歴史博物館
明治・大正 ハマの街
- 新市庁舎建設地・洲干島遺跡 -
2020年6月2日(火)～9月22日(火・祝)
- ◆ 横浜開港資料館
町会所から市役所へ
- 古地図と古写真に見る横浜の歩み -
2020年6月13日(土)～9月22日(火・祝)

